



ながの環境パートナーシップ会議  
令和元年度活動成果報告書

# 手をむすんで



ながの環境パートナーシップ会議





# ながの環境パートナーシップ会議 活動成果報告書の発行に寄せて

1992（平成4）年、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開かれた「地球サミット（環境と開発に関する国連会議）」で、持続可能な発展のための人類の行動計画「アジェンダ21」が採択されました。これを受けて地域行動計画「ローカルアジェンダ」づくりが行われ長野市では、2003（平成15）年に、ながの環境パートナーシップ会議と協働で「アジェンダ21ながの一環境行動計画」を策定し、市民・企業・行政の協働により地域の環境保全活動を進めています。

2019（令和元）年度の活動は、10月の台風19号による甚大な被害と20年1月からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、プロジェクトチームの活動は災害被災対応と自粛との二重苦となり、中断・中止・縮小のやむを得ない活動となってしまいました。

環境問題はいまや地球規模の課題となり同時に、台風19号は長野市民にも地球温暖化による台風の大型化、過去の経験から予測できない短時間豪雨による千曲川堤防の決壊と教訓をもたらしました。

地球環境問題は地球規模で取り組むこととし、1997（平成9）年「気候変動に関する国際連合枠組条約の京都議定書」、さらには2015（平成27）年の温室効果ガス削減に関する国際的取り決め「国連気候変動枠組条約締約国会議（COP）」通

称パリ協定と国際的な枠組みでの活動となっています。また、2015（平成27）年9月「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳に参加のもと「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）2030年に達成すべき目標」として掲げられました。私たちの地球環境と未来を次の世代につないでいくために、持続可能な社会構築の契機になるとSDGsを意識してのプロジェクト活動に取り組んでまいります。

台風19号やコロナ禍においてもパートナーシップ・プロジェクトチーム活動は、長野市の未来の子供たちに素晴らしい自然環境を引き渡すために、今一人ひとりが身近にできることから、「**考働する**」、長野市の目指す姿「**幸せ実感都市『ながの』**：“オールながの”で未来を創造しよう」を実現するべく活動の輪を広げています。より多くの市民・企業・行政の方々にご参加いただき、環境先進都市づくりの一翼を担うパートナーシップの活動に、参加していただけることを目的に発刊いたします。

2021（令和3）年2月  
ながの環境パートナーシップ会議  
代表理事 **金井 三平**

## 目次

活動成果報告書の発行に寄せて（代表理事あいさつ）	
ようこそ「ながの環境パートナーシップ会議」へ … 1	
2019（令和元）年度活動報告 …… 4	
【特集】令和元年東日本台風災害、 新型コロナウイルス感染拡大について … 4	
生ごみ削減・再生利用プロジェクト …… 6	ぼんすけ育成プロジェクト …… 18
レジ袋使用削減プロジェクト …… 8	ゴマシジミ保護・育成プロジェクト …… 20
市民の森づくりプロジェクト …… 12	田中さくら公園作り& 里山づくりプロジェクト …… 22
子どもの環境学習支援プロジェクト …… 14	信州大学工学部「地域環境演習」における 活動報告 …… 24
小生物の育成環境保全プロジェクト …… 16	【特集】ライトダウンキャンペーン …… 26
	プロジェクトサポーター制度の紹介 …… 28
	新聞記事等で見る ながの環境パートナーシップ会議の活動 …… 28



\ ようこそ /  
ながの環境  
パートナーシップ会議へ

ながの環境パートナーシップ会議は、  
市民・事業者・行政の三者が  
連携協働し、様々な環境保全活動を  
進めていく組織です。

ながの環境パートナーシップ会議は、市民・事業者・行政が連携し、  
長野市環境基本計画を推進するための組織として、平成13年6月に設立、  
具体的な実行プロジェクトとして  
「アジェンダ21ながの—環境行動計画—」に基づき、  
「長野市環境ビジョン」実現のため、  
各プロジェクトチームが環境保全活動に取り組んでいます。

未来に向かって  
環境共生のまちづくりを  
一緒に進めましょう。



イメージキャラクター  
キラピー

山の緑も川の水も空の星も  
人の心も、長野市中の環境も  
人も未来もキラキラと輝き、  
生き生きと暮らせるように、  
という願いが込められています。



# アジェンダ21と ながの環境パートナーシップ会議

## ▶ アジェンダ21 ってなに？

「アジェンダ (Agenda)」は日本語で「課題」、つまり、「アジェンダ21」で「21世紀への課題」という意味です。

1992 (平成4) 年、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミット (環境と開発に関する国連会議) で、21世紀に向けて持続可能な発展のための人類の行動計画である「アジェンダ21」が採択されました。

これまで、私たちは大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済システムの中で、今日の豊かな社会を築いてきました。しかし、その一方で、地球温暖化、オゾン層の破壊などの地球規模の環境問題や資源の枯渇といった、人類の生存に関わる問題を引き起こしてきました。この「アジェンダ21」では、これらの問題に対処し、持続可能な社会を実現するための国際機関、国、国民、事業者など様々な立場の人々が取るべき行動として40の分野、1,000以上の行動が示されています。

また、持続可能な社会を実現する鍵が地域にあるという考えから、国連が世界中の地方自治体に対して地域版のアジェンダ21、すなわち「ローカルアジェンダ21」の策定を求めることとなったのです。



## ▶ 「アジェンダ21ながの」を実行するながの環境パートナーシップ会議

ながの環境パートナーシップ会議は、長野市とともに長野市版ローカルアジェンダ21である「アジェンダ21ながの一環境行動計画一」を策定、これに併せて自然と人間の共存を軸に本市の理想の環境像を描いた「長野市環境ビジョン」も決めました。

本会は、アジェンダ21ながのや環境ビジョンを実現する組織として複数のプロジェクト活動を推進しています。



### ◎長野市環境ビジョン

山にみどり・川に清流・谷に風・空に星  
自然と和して発展するまち・人のくらし  
みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの

豊かな山々には人の手が入り、林は清冽な水を生み、里山、田畑、水辺には多くの生き物が息づいて、豊かな恵みを与えてくれる。

まちには、木々が茂る安らぎの空間、水が流れる潤いの空間、すがすがしい風のなかを、人々がゆったりと安心して行き交う空間、自然に調和した街並みがある。そこに、地球の恵みを大切にしている市民のくらしがある。

長野の環境を保全、復元、創造し、未来に引き継いでいこうと、ともに知恵を絞り、汗を流す多くの市民がいる。そして、市民の行動を支える仕組みがある。





# ながの環境パートナーシップ会議の 活動を紹介します

本会は、「つなぐ」・「伝える」・「行動する」を念頭に、長野市環境ビジョンの実現に向けて各プロジェクトチームが環境保全活動に取り組んでいるほか、各種団体事業を支援しています。



## つなぐ

本会会員やより多くの団体とのつながりを強化するため、総会の開催及び各種団体の活動を支援しています。

※信州大学「地域環境演習」の報告については、24～25ページをご覧ください。



アレチウリ駆除活動



信州大学「地域環境演習」



山の日ウォーキング



## 伝える

本会の活動を広く情報発信するため、主催事業の開催や他団体のイベントに参加しています。※第9回ながの環境団体大集合は台風災害により中止



信州環境フェア2019



第24回環境子どもサミット



ポイ捨て条例一斉啓発活動



## 行動する

各プロジェクトチームが様々な環境保全活動を実施しています。

※各プロジェクトチームの活動報告については、6～23ページをご覧ください。



生ごみ堆肥化の啓発活動



ノーレジ袋デー 店頭キャンペーン



趣味の林業講座



子どもの環境学習支援



オオムラサキの環境保全



ぼんすけ観察会



ゴマシジミの保護・育成



里山及び桜公園の森林整備



# 2019(令和元)年度

# ながの環境パートナーシップ会議活動報告

## 1 活動の概要

2019(令和元)年度は、長野市の環境ビジョンの実現に向け「つなぐ・伝える・行動する」を行動指針とし、プロジェクト、広報活動などに取り組みました。また、2017(平成29)年度に見直しを行った、本会の行動指針である「アジェンダ21ながの一環境行動計画」に基づき、事業者・他団体との連携など、新たな協働による環境活動を展開しましたが、**令和元年東日本台風災害**や**新型コロナウイルス感染拡大**により活動に大きな影響がありました。

パートナーシップ会議の事業としては、「第9回ながの環境団体大集合(スペシャルプロジェクトを含む)」が中止となりました。

また、各プロジェクトへの影響については、それぞれの活動報告をご覧ください。

## 2 令和元年東日本台風災害について

令和元年東日本台風では、長野市だけでなく、東日本一帯で大規模な災害が発生しました。

長野市では、長沼地区穂保での千曲川堤防決壊による浸水被害のほか、千曲川沿川の篠ノ井地区、松代地区、若穂地区においても浸水被害が発生しました。

浸水区域は、長野市全体で1,541haに及び、4,000棟を超える住家が被害を受け、発災時に2名の尊い命が失われる事態となってしまいました。

### ●雨の状況

台風第19号の接近に伴い、長野市では10月12日未明から雨が降り出し、降雨量は時間を追うごとに次第に多くなっていった。12日正午を過ぎると豪雨となり、ピークは12日15時から16時となっている。この雨は、13日未明まで続き、10月12日0時から10月13日24時の期間降雨量は136mmとなり、12日の日降水量132mmは統計開始以来の極値を更新した。

### ●川の状況

千曲川流域の降水量をみると、上流に位置する佐久市で10月12日0時頃から連続的に雨が降り始め、12日13時から20時にかけては時間雨量20mmを超える強い雨が8時間にわたり降り続けた。

佐久の12日の日降水量は、これまでの記録(平成11年8月14日の205mm)を大きく上回る303mmを記録し、佐久市の南に位置する北相木でも395mmという観測史上1位の記録的な降雨となった。

このため、佐久市下越(水位観測局)での水位が上昇し、12日21時には最高水位4.77mに到達。下越より約100km下流にある中野市立ヶ花(水位観測局)では、13日4時に氾濫危険水位の9.60mを大きく上回る、最高水位12.44mに到達した。

### ●被害の状況

- ・浸水深 最大約4.3m(推定値)
- ・人的被害の状況(令和2年1月27日時点)  
死亡者2人、重症2人、軽傷92人
- ・住家被害の状況(令和2年2月29日時点)

全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	合計
872棟	292棟	1,226棟	1,684棟	4,074棟

近年、地球温暖化や海水温の上昇に起因するといわれる異常気象により、今回のような大規模な洪水災害の発生が懸念されるうえ、地震や土砂災害の発生にも備えて必要があります。

ながの環境パートナーシップ会議においても、「2020(令和2)年度運営方針」の中で新たに下記のとおり項目を追加しました。

〈ながの環境パートナーシップ会議とプロジェクトチームの連携強化と環境活動の充実を図ります(行動する)〉

- ⑤気候変動によって発生する問題の解決に向かっての取り組み



長野市の台風第19号による千曲川の浸水被害は甚大なものであり今後も起こりうることを考えられます。二酸化炭素を減らすために市民・事業者・行政のそれぞれが危機感を持って再生可能エネルギーを積極的に導入し森林や里山、水環境資源の適切な管理を行うことを目指します。



### 3 新型コロナウイルス感染拡大について

新型コロナウイルス感染症は、我が国においては、2020（令和2）年1月15日に最初の感染者が確認された後、2021（令和3）年1月11日までに、合計290,175人の感染者、4,093人の死亡者が確認されています。

令和2年4月7日には、新型コロナウイルス感染症対策本部長（内閣総理大臣）が新型インフルエンザ等対策特別措置法第32条第1項に基づき、緊急事態宣言を行いました。期間は4月7日から5月6日までの29日間であり、緊急事態措置を実施すべき区域は埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県及び福岡県としました。

それから間もない4月16日には、各都道府県における感染状況等を踏まえ、全都道府県に拡大され、さらに5月4日には、期間が5月31日まで延長されました。その後、各都道府県における感染状況等を踏まえ、段階的に緊急事態措置を実施すべき区域が縮小されていき、5月25日には、緊急事態宣言は解除となりました。

しかし、感染者数は10月末以降増加傾向となり、11月以降その傾向が強まっていき、12月には首都圏を中心に過去最多の状況が継続し、医療提供体制がひっ迫している地域が見受けられたため、2021（令和3）年1月7日、対策本部長は、1月8日から2月7日までの31日間、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県を対象区域に緊急事態宣言を行いました。

さらに、1月13日には、新たに栃木県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県及び福岡県が加えられました。

#### ●長野市の状況

2020（令和2）年4月16日の全都道府県に対する緊急事態宣言を受け、長野市でも下記のような対応を実施しました。

##### 1 市民の皆様へ

- ・徹底した外出自粛の要請
- ・県域をまたいだ移動自粛の要請

##### 2 事業者の皆様へ

- ・一般の事業所における感染防止策の徹底等の依頼
- ・飲食店やスーパーマーケットにおける感染防止策の徹底等の依頼

##### 3 市としての取り組み

- ・学校の休業等
- ・市有施設等の休止
- ・医療提供体制や検査体制の強化
- ・市の業務体制の改革

##### 4 その他

- ・適切な購買活動についての依頼
- ・人権への配慮についての依頼

その後、緊急事態宣言の解除や感染状況の変化等により、段階的に緩和されてきていますが、いわゆる第三波の到来により、県内でも年末年始以降、急速に感染が拡大しており、医療提供体制に大きな負荷がかかっています。

そこで県は、2021（令和3）年1月14日に対策本部会議を開催し、全県に「医療非常事態宣言」を発出しました。

これらを踏まえ、市でも再度対応を強化し、市民にも慎重な行動をとるようお願いしています。

#### ●感染者数（2021（令和3）年1月31日現在）

- ・長野市438人（長野県2,288人（死者36人））







## 生ごみ削減キャンペーン活動とキッズ生ごみ農園の復興

令和元年度の生ごみチームの主な活動は、先ずこれまで住民自治協議会や長野市と協働で行ってきた生ごみ削減・再生利用の講座「生ごみ減量の実践学習」を引き続き開催しました。また信州環境フェアで「展示・クイズ・試飲・楽しい生ごみ教室」を、ながの環境フェアでは麦ストローの試作品展示を実施しました。恒例となった軽トラ朝市やアモーレフェスタの「展示・野菜販売」にも参加しました。

そして、「キッズ生ごみ農園クラブ」会員の生ごみ回収と堆肥化及びその堆肥を利用した野菜作りを実践し、「夏と秋の収穫祭・生ごみと野菜の交換市・軽トラ市」を実施しました。これらの活動により4年目に入った「キッズ生ごみ農園クラブ」の会員は12家族から20家族と増えたのですが、台風第19号の浸水被害により秋の参加者は13名しか集まらず、その後、継続した会員は8家族となってしまいました。

被害状況も著しく、ミミズコンポスト・農業用ハウスを始め、トラクターなどの耕運機は殆ど不能となり、廃棄、洗浄、修理を4ヶ月続け、同時に麦の種まきをし、復活を挑みました。その結果、多くの人の応援があり、4月には例年通りの種まきがスタート出来ました。



主な私たちの活動を紹介します



### 夏の収穫祭を盛大に実施

7月28日、サポーター企業（浄掃組合5社）と家族会員の親子39名が生ごみを一人1kg以上持参して参加。暑さと湿気の中でジャガイモ約700kgを収穫しその場でジャガバタを味わいました。生ごみ堆肥だけでこんなに美味しいジャガイモが育つと大喜びでした。参加者には、大人が一人7kg、子供が3kgのジャガイモをお土産として持ち帰っていただきました。



### ミミズコンポストに生ごみを投入 生ごみと野菜の交換市を実施

収穫祭や交換市ではミミズコンポストが大活躍です。キッズ生ごみ農園に来ていただく時は、生ごみを1kg以上持ってきていただき、採れたての野菜と交換しています。家族会員は、収穫時期に呼びかけ野菜と交換しています。

ところが、会員以外の方が大量に袋ごと生ごみを置いて、ビニールやビンなども一緒に捨てるので、一時は受入れを停止したこともありましたが、一方で堆肥場を拡張し、カブトムシの幼虫が沢山発生したので会員親子に育ててもらっています。



### ダンボール堆肥化講座と 生ごみを少なくするお料理教室

安茂里地区住民自治協議会と若槻地区住民自治協議会のご協力により、生ごみ削減の「ダンボール堆肥化講座」を開きました。参加人数は20名前後ですが皆熱心に取り組んでいました。







## 信州環境フェアに参加 展示とクイズとステージ発表で集う

信州環境フェアでは、生ごみ削減から再生利用までの流れをステージ1～4までの順に、削減グッズ、生ごみ堆肥作り、培養土づくり、花や野菜の鉢植えなど一目見てわかるよう展示。恒例のクイズに答えて期限間近の品物を差し上げるコーナーは、多くの来場者に生ごみにしないで利用する機会となります。また、シソ・ジュース試飲など盛りだくさんの内容で行いました。

ステージ発表では、今年も「楽しい生ごみ教室」開きました。子供向けの「生ごみクイズ」を解きながら、ミミズやカブトムシの幼虫を見せたり触らせたりすると子供たちは大はしゃぎ。生ごみ堆肥で育てたジャガイモをプレゼントして大変喜ばれました。

## 秋の収穫祭を災害復興のシンボルに

11月23日、水害にも負けず無事だった大根を掘りました。大根、人参、ジャガイモ、キノコ、さつま揚げと具たくさんの手造り味噌味で豚汁を作り、地粉のすいとんを落とし、皆で焚火をしながら最高のお昼ご飯でした。参加者には、大根を一人10本持ち帰っていただきました。被災40日後の意気込みでした。



浸水2日後の農場



## アモーレフェスタに展示、出店

11月3日に安茂里地区アモーレフェスタに展示と出店をしました。今年は駐車場のみで生ごみ堆肥で育てた大根の直売をしました。水害に負けずに育った大根を格安でお分けして大変喜ばれました。



リーダー 河西 弘明

### プロジェクトリーダーから一言／

今年は大変な年でした。生ごみ削減キャンペーンとキッズ生ごみ農園クラブの二つの活動を中心に動いてきましたが、被災直後は農園の活動を諦め1本にしようかと思いましたが、「ここまでやってきたのだからなあ」という仲間の声に押しされ、地図を片手に新たな候補地を探して12カ所を巡るが、いずれも条件に合わず復興することにしました。片付けと修理と整地の作業が続き、何とか秋の収穫祭が出来た時は感慨ひとしおでした。脱プラスチック運動の麦ストロー製作は、大きく育ったライ麦を刈り取り、8月には試作品を作りました。少しでも前進です！

また、住民自治協議会主催による生ごみの削減・再生利用を呼びかける啓発活動にも、生ごみ堆肥化の成果として農園で生産した野菜（ジャガイモ・大根・黒小豆など）をクイズや講座の参加賞や試食コーナーに活かしました。それに、ライ麦粉で全粒粉パンを作り、黒小豆餡のおやきを作るなど会員それぞれに味わっていただきました。生ごみを減らして有機無農薬の循環作物作りで、こんなに豊かな生活ができるのだと感じていただければ大変嬉しく思います。







## マイバッグ持参を当たり前

ようやく **レジ袋有料化の法制化**  
2020(令和2)年7月1日より全国一斉に実施!!

**活動概要：**当プロジェクトは、「アジェンダ21ながの—環境行動計画—」の中のプロジェクトとしてごみの削減を目指して2003（平成15）年6月より活動。長野市内の食品小売事業者と「ごみ減量化に関する懇談会」を開催し、消費者（市民）と店舗（事業者）と行政の協働のもと、レジ袋の使用を削減するキャンペーンを展開し、活動を継続。2020（令和2）年7月1日全国一斉のレジ袋の有料化の法制化を受けて6月の総会で発展的解消としました。



### 第一期 「ごみ減量化に関する懇談会」での事業者と「レジ袋削減（ノー・レジ袋）」の協働の確認

2003(平成15)年 10月	食品トレイの削減に向けて開催されていた「ごみ減量化に関する懇談会（ながの環境パートナーシップ会議の食品トレイ削減チーム、長野市内の食品小売事業者15社及び消費者団体）」第5回目の中で、レジ袋使用削減対策について取り組んでいくことを確認
11月	レジ袋使用削減の取り組みにあたり消費者意識調査やレジ袋使用実態調査などの現状把握から始め、レジ袋削減についての課題整理をワークショップにより実施し、チーム内の共通認識を図る。

### 第二期 「ノー・レジ袋デー」の店頭キャンペーン開始

2004(平成16)年 9月	「ノー・レジ袋デー」の店頭キャンペーン開始 ・以後、市民団体・事業者等の協力により、毎月5日に協力店舗で実施 ・参加事業者：懇談会参加の市内食品小売14事業者（47店舗） （18/11/3 現在 14食品小売事業者 1ホームセンター 54店舗）
2005(平成17)年 3月	「ノー・レジ袋デー」をスーパー以外の事業者へ拡大の取り組み開始
8月	啓発用ポスターのデザインの公募 【ポスターの写真】 ・応募作品25点、最優秀賞を啓発用ポスターの原画に採用
2006(平成18)年 11月	「ながの市民環境フォーラム」 ・シンポジウム「レジ袋削減の意義とその実現に向けて」を開催



2004(平成16)年9月より2019(平成31)年3月までキャンペーンを実施。多くの市民ボランティアが見つないできた。のぼり旗、タスキ作成、ティッシュを配布し、マイバッグ持参を呼びかけた。





2007(平成19)年 8月	「ごみ減量化に関する懇談会」 ・「ノー・レジ袋デー強化キャンペーン」の実施について ・事業者、消費者団体それぞれのレジ袋削減の取組と相互協力の確認
10月	「ノー・レジ袋デー強化キャンペーン」(5日) スタート
2008(平成20)年 10月	第2回「ノー・レジ袋デー強化キャンペーン」(5日～7日) ・市長、市議会議員を動員。マスコミによる報道強化
2009(平成21)年 1月	「ごみ減量化に関する懇談会」 ・レジ袋削減キャンペーンの現況報告や、マイバッグ持参率の目標を60%とすることが了承された。

第三期

広域での取り組み  
「千曲川流域レジ袋削減推進協議会」

千曲川流域（佐久市、小諸市、東御市、上田市、坂城町、千曲市、長野市、須坂市、高山村、小布施町、中野市、山ノ内町、飯山市）で削減に取り組む



2009(平成21)年 9月	「レジ袋削減に関する事業者懇談会」 ・事業者ヒアリングの結果報告や、今後の取り組みに関して話し合う。
9月	「千曲川流域レジ袋削減推進協議会」設立 ・ながの環境パートナーシップ会議、長野市も構成団体として加入 設立総会【長野市民会館】市民39名 事業者11名 行政32名 計82名
2011(平成23)年 9月	長野市主催の「ながの環境フェア」での啓発活動を開始
2012(平成24)年 2月	啓発ステッカーの作成、配布 ・市内の協力店舗(48店舗中了解を得た29店舗)に配布し掲示を依頼
8月	長野県等が主催する「信州環境フェア」へのブース出展を開始 (以後2018(平成30)年まで出展)
9月	長野県知事による「レジ袋無料配布中止」提唱



信州環境フェアに出展

◀毎年好評だったスーパーで1日に使用されるレジ袋の重さ(約)11kgの体験コーナー。参加者の関心が高く、いつもにぎわっていた。レジ袋に関する展示。



ごみ減量化に関する懇談会



第四期 長野地域での取り組み

「マイバッグふえすた」「ごみ減量化に関する懇談会」「信州環境フェアへの出店」など

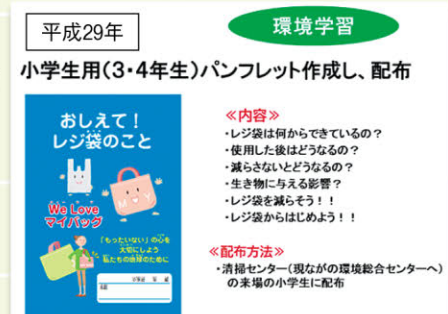
2012(平成24)年 12月	マイバッグふえすた(第1回)を開催 ・レジ袋削減を考える会ながの主催(レジ袋チーム共催)
2013(平成25)年 8月	「食品トレイ使用削減プロジェクトチーム」の活動終了 「プラスチック製容器包装材の使用削減等に関する申し合わせ書」の廃止 マイバッグふえすた(第2回)を開催
10月	県による「レジ袋削減協働アピール」
2014(平成26)年 2月	ごみ減量化に関する懇談会(19日、26日) ・市内を2地域に分けて実施。各地域の店舗のレジ担当者にも参加してもらい地域、現場の声を聞きながら今後の活動を検討した。
2014(平成26)年	マイバッグふえすた(第3回)
2015(平成27)年	マイバッグふえすた(第4回)
2016(平成28)年 3月	マイバッグ持参率60%をはじめて超える(60.4%)。
6月	「千曲川流域レジ袋削減推進協議会」解散(目標値持参率60%を達成)
2016(平成28)年	マイバッグふえすた(第5回)



第五期

熟成期(持参率60%越え)新たな課題へSDGsへの取組み(マイクロプラスチック問題) 持参率アップ、環境学習への移行、新たな環境問題 使い捨てプラチックを無くそうへ

2017(平成29)年 3月	ごみ減量化に関する懇談会
3月	マイバッグ持参率調査にて、65.5%を記録、2年連続で60%を超えるとともに長野県平均(63.8%)をはじめて超えた。
2017(平成29)年	パンフレット「レジ袋のこと教えて」作成 ・市内の小学4年生に清掃センター見学時に配布 ・29年度はセンター見学が終了後であったので、小学校を回り配布
2017(平成29)年 12月	マイバッグふえすた(第6回)今回で終了
2018(平成30)年 3月	マイバッグ持参率 企業のレジ袋削減に関するアンケート調査(対象:長野市内に店舗を持つ食品小売事業者スーパーマーケット15社、回答率66%)
2019(平成31)年 3月	マイバッグ持参率が65%を超え、また国で有料化の動きが出ていたため、レジ袋使用削減プロジェクトの役割がほぼ終了、今後のチームの方向性を検討
2020(令和2)年 3月	今年度でレジ袋チームの活動は発展的解消とする。 (2020(令和2)年6月の総会にて発展的解消宣言)



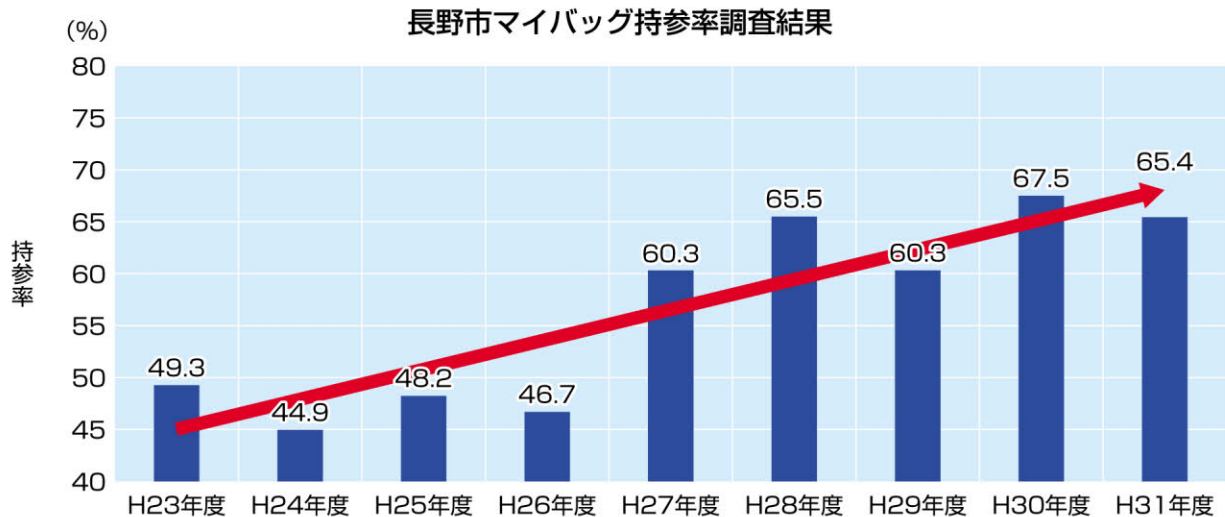




## プロジェクトから

平成16年度からキャンペーンを行ってきました。下の図は平成23年度から31年度の持参率の推移です。

**方法及び時期:**毎年その年度の3月に5店舗を選択し10時半から12時半まで同じ方法で持参率調査を実施。店舗はほぼ同じ店舗。(レジ袋有料化店舗2店舗、無料配布店舗2店舗、2円還元店舗1店舗)



## \プロジェクトリーダーから一言/

## レジ袋削減チーム解散宣言

レジ袋使用削減チームは、ながの環境パートナーシップ会議の平成13年の設立当初からその市民・事業者・行政の協働による活動という特性を生かし、目的に向かって取り組んできました。その結果、マイバッグ持参率は当初は10%に至っていませんでしたが、様々な活動に後押しされ2018(平成30)年には67.5%を達成することができました。そして、2020年(令和2)年7月からは法律でレジ袋の無償配布が禁止されるようになりました。

私たちは理想の街の姿として「レジ袋の使用を減らし、買い物袋(マイバッグ)を持参する意識を定着させることにより、ごみ減量に対して市民が主体的に行動し、資源を大切にしているまち」とし、マイバッグ持参率を80%としてきました。この80%という数字は、レジ袋の有料化が実施されれば、ほぼ達成される数字です。

そこで、私たちレジ袋チームは、持参率が65%を超え、レジ袋の有料化が国の法律の中に位置づけられたことは、私たちの目指した理想の街への道が開け、このプロジェクトの役割は一応終了したと考え、レジ袋使用削減チームを発展的解消といたします。

## 新しいチームに対して

しかし、レジ袋の有料化の制度はできても「ごみ減量に対して市民が主体的に行動し、資源を大切にする」ということは、市民・事業者・行政に対して絶えず働きかけ、学習の場の提供が必要ではないかと考えます。

新型コロナウイルスが終息した後の市民のライフスタイルの変化がどのようになるか、持続可能な社会とはどのような社会なのか、見定めたいです。私たちはレジ袋だけでなく、生態系の循環サイクルに入らない使い捨てプラスチックに着目し、ライフスタイルの価値観を見据えた新しいプロジェクトが立ちあがることを期待します。新しいプロジェクトの中に、環境教育の一環として、作成したパンフレット「教えてレジ袋のこと」を活用していただきますよう願っています。



リーダー 渡辺ヒデ子





## 市民の皆さんに喜んでいただけたような森づくりに取り組みました

私たちのチームは、令和元年度も、以下の事業を実施しました。

6月より5回積み上げの「趣味の林業講座」、9月「高校生の森林整備体験受入」、4月「きのこの駒打ち」の開催、山の日ウォーキングイベント、環境こどもサミット、善光寺の森整備作業への参加、毎月2回の定例森林整備作業、およびミーティングなどを積極的に行いました。

しかし、台風災害とコロナ禍により秋の里山散策とかんじき体験会は中止となりました。



主な私たちの活動を紹介します



### 趣味の林業講座

6月～9月に、5回積み上げの趣味の林業講座が、長野市森林整備課、長野県林務部、市民の森ながのの共催で開催されました。基礎からしっかりと学びたいという方、自分の山の手入れをしたい方など今年も多く受講生が集まり、大変に活気あふれる林業講座となりました。

### 自然観察

趣味の林業講座や森林博物館の自然観察会など、市民の森やその周辺にて自然観察を実施しました。

散策し易く、気持ちの良い森となったボブスレー・リュージュパークの市民の森を見て頂くことに合わせ、森林の役割や大切さについても学んでいただきました。



### 高校生の森林整備体験受け入れ

今年も、北部高校生の生徒さんの森林整備体験講座をボブスレー・リュージュパークの市民の森にて受け入れました。手鋸を使って、高校生の皆さんで協力しながら間伐体験をしていただきました。中には、のこぎりを殆ど使ったことが無く、悪戦苦闘の間伐作業との生徒さんも見えました。





## 市民の森の整備

月2回、定例整備日を設け、ボブスレー・リュージュパーク周辺の森を中心に森の整備を実施しています。

今年は台風による倒木などもあり、中々大変な作業もありましたが、皆で愉しく、そして安全が第一で作業を実施しています。

## きのこの駒打ち

4月には、きのこの駒打ちを行いました。秋の収穫を夢見て頑張る作業に取り組みました。駒打ちの後は林内に敷設。乾燥を防ぐために少し埋めたり、落ち葉を掛けたり、敷設する場所を考えるのもなかなか難しいものです。

残念ですが、コロナ禍の影響で今年は会員のみでの作業としました。



## 環境こどもサミットなどのイベント

環境こどもサミットなどの環境イベントにも出展しました。内容は木工クラフト、山の材料でブローチやアクセサリを作ったり、ミニかんじきを作ったり、木の名札を作ったりしました。子供たちの発想力には驚きますし、大人顔負けの出来栄でした。

メンバーは普段から森林整備の合間を見て材料の調達もしています。

## プロジェクトリーダーから一言／

山の作業を通して仲間と出会い、語り、喜びを分かち合うことができました。日常生活では味わえない何かが、そこにはあるのです。

長野市内に、市民が誰でも入ることのできる森があちこちに来て、自然の中で遊んだり、学ぶことが身近にできる、そんな森が長野市民の財産となって行く、そんな里山の在り方が、我々の夢でもあります。

ボブスレー・リュージュパークの奥の森は、私たちが手入れを始める前は、立入ることもままならない数々の森でしたが、今では気持ち良く散策の愉しめる森となりました。どうか皆さんも一度この「市民の森」に来てみて下さい。きっと何かを感じていただけるのではないのでしょうか。

まだ道半ばです。仲間となっていたただける皆さんを募集しております。

URL <http://siminnomori.nagano-ep.net/>



リーダー 片桐 勝治





## ユース(中高大学生)の環境学習と交流に取り組んでいます

地球環境の危機の時代、地域に環境活動を根付かせることがますます重要になっています。長野市には多くの環境NPOが活動し、こどもエコクラブもあるのですが、中学生、高校生になると環境活動の機会がなくなることが、大きな課題です。国連環境計画会議など海外の環境交流活動に子どもたちを参加させてきた体験から、国際的な交流は子どもたちの意識や、考え方を大きく成長させることがわかりました。そこで、中高大学生(ユース)を対象とした国際ユース環境会議を毎年開催し、国内外のユースが交流することで、子どもから大人まで、各世代の環境活動がつながり、長野市が「国際環境都市」として大きく発展していけたらと考えています。



主な私たちの活動を紹介します

### 国際ユース環境会議の経過

#### 長野から始める!

周りを山に囲まれて、  
海外を意識しにくい

オリンピック経験  
がある

地元を良くしたい  
(地域活性)

環境が豊か

**長野を国際環境都市に!**

2010. : 環境X国際交流をこどもサミットで呼びかけ  
2012.06.15-17 : 第1回を鬼無里で  
2013.08.09-11 : 第2回を大岡で  
2014.09.5-7 : 第3回を戸隠で  
2015.06.27-28 : 第4回を鬼無里で  
2016.06.15-17 : 第5回を小田切錬成センターで  
2017.06.30-02 : 第6回を小田切錬成センターで  
2018.06.22-24 : 第7回を長野市内シナノキ会館で  
2019.09.7-8 : 第8回を小田切錬成センターで  
2020.10.3-4 : 第9回を市内と錬成センターで開催

### 今年のテーマは「ゴミって何だろう」 Zoomで他県ともつないでレポート発表

今年はオンラインを活用することで環境活動をしている全国のユースにも呼びかけることで視野が大きく広がりました。3日は市内の会場と他県からのユースとzoomを使って今年のテーマである「ゴミって何?」を事前作成の資料を各自英語で発表し、意見交換しました。古着をダサくなくリサイクルするなどユースらしい発表があり、同じテーマでも人によって様々な視点から発表することで、新たな発見ができるとともに、とても良い経験交流となりました。



### ワークショップ: 海外のゴミ山を見て

次いで「ポイ捨てを減らすには」をZoom会議でグループ毎に討論し、学校でのゴミ拾いの結果をもっと地域に知らせたいなど、意見交換をしました。発表の後、フィリピンのゴミ山で暮らす子ども達の写真紹介があり、世界ではゴミが様々な社会的課題となっている現状を学びました。ゴミは見方によって有用にもなることがわかりました。



## 昔ながらの遊び

4日は小田切の錬成センターに集まって学習・交流会をしました。最初は、竹を使って遊び道具を作ることで、ゴミの出ない生活を考えるワークショップです。長野市こども支援員の渋谷啓治さんから竹とんぼの作り方を教わりました。削るのが難しかったけど、皆で庭で飛ばしたのが楽しかったです。



## 海ゴミでアクセサリー作り

海にはたくさんのゴミが漂着してきます。きれいなプラスチックや陶器の破片など様々な「ゴミ」を送ってもらい、それらを使って接着剤などできれいなアクセサリーを作りました。誰にプレゼントしようかとわくわくしました。山国長野からも川を通してたくさんのゴミが海にながれているのでしよう。



## BBQで楽しく交流

ハンターの後藤さんから長野県でのシカやクマなどの野生動物の現状とその対策について話を聞きました。その後、狩猟されたシカの肉を実際に解体し、BBQで食べることで野生動物を身近に感じる貴重な体験をしました。



## 未来への手紙

この会議で感じたことや体験したことを思い出しながら、自分と世界の未来へ向けての手紙を書きました。普段の生活の中では未来を考える機会はありませんように感じます。様々な世代の人と一緒に生活する中で何を学んだのか、それをどのように活かせるのかなど、考えをまとめるのは大変でしたが、有意義な時間となりました。来年に自分の書いた手紙が届くのが楽しみです。

## プロジェクトリーダーから一言／

長野市には多くの環境活動がありますが、「地域に根付いた活動」のためには子どもから中高大学生、大人まで継続的に活動が行われる場が必要です。そのために国際ユース環境会議を立ち上げ、今年で9回となりました。今回は前回参加のユースがテーマや内容を工夫するなど、新しい取組が始まりました。コロナ流行の中ですが、オンラインで他県のユースとも意見交流ができました。そのことで改めて地元の良さと足りない部分とがわかり、長野市らしい環境活動が生まれてくるのではないのでしょうか。皆さんも世界と足元の長野の現場から未来を考えてみませんか。



リーダー 渡辺 隆一





## 国蝶オオムラサキの環境保全とマツシロベニエドヒガンの育苗に取り組みました



私たちチームは、令和元年度活動としてオオムラサキをはじめとする様々なチョウの飛翔乱舞する事を夢見て生息環境の保全・整備に取り組みました。  
また、「マツシロベニエドヒガン」の育苗に取り組み、1千本を目標に普及活動を行いました。



主な私たちの活動を紹介します



### ①オオムラサキ観察会開催 (小学校／一般)

松代地域の全ての小学校（6校）がオオムラサキ観察会に訪れました。オオムラサキの羽化に立会うことができ、「がんばれー！」と歓声をあげていました。一般市民対象の観察会は100名の参加者があり、幼虫・蛹・成虫を観察し、感嘆の声があちこちから聞こえました。

(令和元年6～7月 小学校5回、一般1回)



### ②マツシロベニエドヒガン苗木の 除草と追肥作業

エドヒガン苗木の除草や追肥及び枝木の整理を行いました。

6月～7月は雨が少なく心配でしたが、成育状況は良好でした。

(令和元年8月)







### ③信州大学研修生受け入れ

信州大学の地域環境演習から研修生1名が来てくれました。

毎週のオオムラサキ幼虫の飼育作業や整備作業をして頂き、一般向けのオオムラサキ観察会では幼虫観察記録の報告をして頂きました。

(令和元年5月～12月)



### ④アサギマダラの飛来

フジバカマ園に今年もアサギマダラが飛来してきました。ヒョウモンチョウ等いろいろなチョウも集まってきて、乱舞する姿は見事でした。

(令和元年10月)

### ⑤オオムラサキの里 自然観察ハンドブックの発行

「信州松代 オオムラサキの里 自然観察ガイドブック」を制作しました。

オールカラー、全24ページです。

松代地域の小学校6校と中学校1校の全児童・生徒に配布しました。自然観察会でも配布し、観察に役立てたいと思います。

(令和2年2月)



### プロジェクトリーダーから一言／

#### “オオムラサキ蝶の里・竹ノ入について思う”

私達「小生物の育成環境保全PT」が「スハマ会」より、オオムラサキの保護活動を引き継いだのは7年前のことです。その後、オオムラサキの発生が減少ぎみでしたが、ここ数年は回復傾向にあります。しかしまだ満足するにはほど遠い状態です。私達はどのように自然に接し、オオムラサキを増やすにはどのようにすべきか？オオムラサキが「竹ノ入」の空に乱舞する姿を夢見ながら、会員の皆さんや一般市民の方々の知恵や情報を頼りに前に進み、生育環境の整った「オオムラサキの里」を次世代に引き渡したいと思っています。



リーダー 杉山 茂樹





## ぽんすけ(シナイモツゴ)を通じた 信里の生態系保全・環境維持

信里地区の「ぽんすけ育成会」です。よろしくお願いいたします。  
2016 (H27) 年に発足して、2020年で5年になります。特に今年は大変な1年となりましたが、これからも絶滅の危機に瀕しているぽんすけ(シナイモツゴ)を守りながら、里山環境を残す「ぽんすけ育成プロジェクト」へのご協力をよろしくお願いいたします。



主な私たちの活動を紹介します



### シナイモツゴって何？

コイ科の淡水魚で全長約8cm。都市化の開発や外来魚などによる捕食等により、減少傾向にあり、国及び長野県が絶滅危惧種に指定しています。長野県では、長野市、上田市、栄村に生息しており、その中でも長野市信里地区には全国的にも珍しいため池群にシナイモツゴが生息しています。信里地区ではシナイモツゴのことを「ぽんすけ」と呼び親しまれています。

### ぽんすけ観察会

2020年度はコロナの影響もあって参加者を集めての観察会は行えませんでした。例年であれば、信里小学校の池にて、ぽんすけ観察会を開催しています。会員以外も参加できる公開観察会と信里小学校の児童・地域住民を対象としたものです。

ただし、今年度は活動に参加していただいた方限定の簡易的な観察会を行い、ぽんすけにふれる機会を増やすことができました。



### Tシャツなどグッズ販売

ぽんすけ育成会のオリジナルTシャツ、バッジ、ステッカー、シールを作成し、ぽんすけ観察会や茶臼山動物園まつりでのブース出展時に販売しました。大変好評です。一人でも多くの方にぽんすけ育成会を知ってもらいたいです。





## ぼんすけ田んぼでのお米作り

ぼんすけの生息するため池の水は稲作にとってはとても大切な物です。川のない信里では稲作をするため池が大切に維持管理されてきたため、ぼんすけは生き残ってきました。田んぼの生態系を維持するために育成会では、ぼんすけ田んぼでの稲作に取り組み、できたお米を「ぼんすけ米」として販売しています。2020年は無農薬にも取り組みました。

## ため池の掻い掘り

ため池を整備しないと最後には湿地化してしまいます。育成会ではNPO法人生態工房とタイアップして信里のため池を掻い掘りすることにしました。冬期のため池を使用していない時期に池の水を抜いてたまった泥やヘドロをくみ出します。



## 生き物調査

信里には400を超えるため池が存在しています。育成会では2019年度にため池のぼんすけ生息調査を開始いたしました。2020年度はぼんすけ以外の生き物たちにも目を向けて記録を開始しました。県内でもほとんど見られない微小甲虫なども発見でき、信里の自然の凄さを改めて教えてもらう1年でした。

※信里のため池は全て所有地です。地主の方に許可を取らなければ立ち入ることはできません。もちろん育成会では地主の方にご協力を頂いています。

## 定例会

毎月一回は定例会を開催しています。話題が尽きることはなく、活発に議論し、新しい事業への着手、既存事業の反省やブラッシュアップに取り組みました。老若男女、地域内外、幅広いメンバーが参加しています。



## プロジェクトリーダーから一言／

シナイモツゴ絶滅の危機を知りぼんすけ育成会を立ち上げ、にわか勉強ながら観察会や学習会を行いここまで参りました。シナイモツゴの命の危うさと向き合いながら保全活動を通して地域の活性化にもつなげたいとみんなでがんばっています。当会の活動は2016（H28）年4月、長野県から保護回復事業として認定されました。

ぼんすけ（シナイモツゴの愛称）の生息池を守るための活動（調査・研究）に住民の理解協力が大事なので、今後は住民に向けての広報活動に力を入れたいと思っています。

ご理解ある皆様に支えられ、心を合わせ楽しく事業に取り組みたいです。皆様ご参加下さい。



リーダー 小林 和子





# 絶滅危惧種ゴマシジミの保護育成活動に取り組みました

私たちチームは、長野市浅川地区、長野市霊園に生息する環境省のレッドデータリスト絶滅危惧種1A類に指定の蝶、ゴマシジミの保護育成活動に取り組みました。

また、この取り組みを次世代へつなぐ方策として、ゴマシジミを題材にした紙芝居を制作し、啓発活動を実施したほか、紙芝居を市内全小学校へ寄贈しています。



主な私たちの活動を紹介します



## ゴマシジミって何？

成虫は開張40mm前後。環境省の「絶滅危惧1A類」に指定され、本州中部亜種としては長野県長野市浅川地区と松本市奈川地区にごくわずか生息しています。

幼虫は、ワレモコウを食草とし、その後、シワクシケアリの巣に運び込まれ、巣の中では、アリの幼虫を食べて成長するという特異な生態をもちます。

## 地元小学校で育苗したワレモコウを移植

浅川小学校育苗のワレモコウ130株を、さくら苑南法面（令和元年度は西側）と百日紅北道路沿い部分（新）、赤松西斜面上部（新）に移植しました。浅川地区住民自治協議会ゴマシジミ保護・育成チームメンバー6名と霊園職員6名で実施しました。





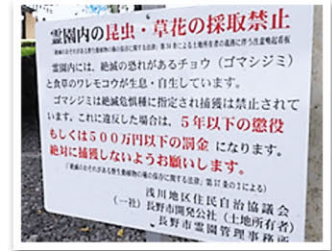


## 密猟を防止!! 生息地内をパトロール

私たちチームは、ゴマシジミの密猟を防ぐため、生息地である長野市霊園内の巡回パトロールを実施しています。密猟者は霊園職員がいない時間帯を狙おうとするため、早朝から同職員が出勤する午前8時30分まで広さ26㍓ある霊園内の生息区域5か所を中心にパトロールします。

また、ゴマシジミは、長野県の保護条例で無届での捕獲が禁止されているため、防止看板も設置しました。皆さん、保護活動にご理解ご協力をお願いします。

密猟者は5年以下の懲役もしくは500万円以下の罰金に! ▶



## 地元小学生に紙芝居を上演、ワレモコウの状況を視察

平成30年度、ゴマシジミに関心をもってもらおうと、ゴマシジミの一生を描いた紙芝居「がんばれ!!ゴマシジミ」を制作しました。この紙芝居は、地区住民が脚本を考え、北部中学校美術部の生徒に絵を描いてもらった手作りのオリジナル作品です。

10月には、地元の浅川小学校4年生において「ゴマシジミ・ワレモコウについてのお話し」と題し管



理事務所内で講演を行い、地元ニコニコ座による「紙芝居」上演を実施しました。

話の後、さくら苑法面エリアに、自分たちが育てた苗を移植したワレモコウの状況を視察。

これらのことを実施することで、子どもたちにゴマシジミの生態を知ってもらおうとともに自然環境により関心を寄せてほしいと願うばかりです。

## プロジェクト事務局から一言／

「ふるさと創生」活動の一環として、浅川地区内住民の意識の高揚とボランティア参加の醸成を図り、浅川の特徴である中山間地と平野部の融合を徐々に深め、また子ども達からお年寄りまでの交流を図り次世代への財産として繋がればと考えています。

まちづくり計画に位置している「ゴマシジミの保護・育成」をとおして、里山の整備、自然環境の保全の大切さを学んでいければと思い、継続的な活動を行っています。

今後も生息環境の観察とゴマシジミの生態系の研究にいつそう取り組み、地元の資産として子供から大人まで関心を持ってもらうよう、継続性のある活動を目指したいと思っています。



事務局 原田 孝成





## 地域のシンボルらしくなってきたような一年間の活動・作業ができました!

私どものチームは、夏の思いっきり暑い1日に、東京・大阪・京都などで学ぶ学生さんたちのボランティアの皆さんと山の手入れをするという、思いっきり印象深い一日を過ごすことができました。イヤー、若いっていいですね。

また、冬間近の晩秋には翌春の姿を楽しみに、田中桜公園初めての花壇づくりに挑戦しました。春、かわいい花がたくさん咲きました。

花壇のお披露目をする桜祭りは今回無し。コロナ禍のため。



主な私たちの活動をご紹介します

### 8月 学生とともに里山整備&桜公園整備&子ども工作教室



8月5日に里山整備・桜公園で学生ボランティアと活動国際学生ボランティアセンターの学生さんおよそ50名が大変な暑さの中、森林整備作業にやってきました。

私どもと一緒に、私どもの里山及び桜公園の森林整備を行いました。田中の子どもたちに木の名札づくりを教えていただきました。子どもたちとの交流にも感謝です。

私どもは、受け入れのために1ヶ月前から準備開始。学生さんたちが満足の顔でバスに乗り込まれたのを見て安堵しました。

#### 長野県北信地域森林整備活動(8月5日)

[2019年08月05日 (Mon)]

活動3日目となる本日は長野市田中地区の森林で学生57名、事務局員2名、OG1名が長野地域振興局林務課や長野県庁治山係など県から8名の方々と田中地区の皆さんなど地元の方約20名と共に活動しました。



4年前にも活動させていただいた田中地区では、今回は地滑り防止の井戸付近のフェンスの草の除去や、放置された枯れ木の撤去、地域の子どものための桜の木の名札作り、そして竹林の整備や治山のための水路の整備を行いました。

NPO法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA)  
2019年8月5日

#### 【長野県北信地域森林整備活動 8月5日】

活動3日目となる本日は、長野市田中地区の森林にて、長野地域振興局林務課や長野県庁治山係や田中地区の皆さんなど地元の方約20名と一緒に活動しました。

4年前にも活動させていただいた田中地区では、今回はフェンスの草の除去や、枯れ木の撤去、地域の子どものための桜の木の名札作り、そして竹林と水路の整備を行いました。

本日で今回の活動の作業自体は終わりとなるため、精一杯の力を込めて作業し、その結果、目に見える違いが出るほどの成果を上げることができました。

この活動は公益社団法人国土緑化推進機構の「緑の募金」の支援を受けて実施しています。

#環境保護 #長野市 #森林整備 #緑の募金



昼食では田中公民館で地元の方々や地元で採れたトマトやキュウリなどの野菜を食べながら活動のことや日常生活のことなどを話し楽しく交流しました。



本日で今回の活動の作業自体は終わりとなるため、気合の入った掛け声が飛び交い、精一杯の力を込めて作業しました。





## 田中さくら公園便り

2020年4月6日



昨年 11月、みんなで植え付けた  
チューリップ花壇

ジャン！！！！  
今見頃

4月6日(月)

2月24日

芽を出して

桜のイベントは、コロナ関係のため行いません。しかし桜は頑張っています

# 桜 咲 い た



4月6日(月)  
11時30分撮影

この桜は  
神代曙桜  
ジンドイアケボノ

今真っ盛りです。  
この種類は7本ほど  
あります

この後、  
舞姫桜(上中旬)  
八重紅大島桜  
一葉桜(中旬)  
紅華桜(中下旬)  
と見頃を迎えます。

あなたの育てている  
桜は今どうしている  
でしょうか  
頑張っている桜、  
応援してくださいね

頑張ってるねって声  
をかけるにいきましょう

## 春を迎えて

そして3月はじめには福寿草。4月にはかわいらしいチューリップ、水仙が咲くと桜も見頃。しかし、コロナ禍で、例年行ってきた桜祭りは中止に。残念！でも、桜が一層大きくなり、たくさんの花を咲かせ、桜は元気!! それぞれがそれぞれの都合でそれぞれに桜のせわをしました。

## \プロジェクトリーダーから一言/

田中桜公園を地域のシンボルに、里山づくりに励もうとメンバー一同頑張っています。

田中を横切る若槻大通りのコンビニやラーメン店からも花の咲いていることが分かるくらいに育ってきた桜たち。桜公園が憩いの場となり、足がかりとなって里山づくりに夢が膨らみます。

若槻のトレッキングコースの一つ『水道道』が田中の里山と桜公園を横切っています。

数年後、散策に訪れる市民の皆さんにも喜んでいただける場所になっていくと自負しております。体作り健康作りにもお立ち寄りください。



リーダー 上條 補喜



信州大学工学部

## 令和元年度 「地域環境演習」に おける活動報告



信州大学工学部機械システム工学科  
教授 榊 和彦

本学部学生向けの選択科目である「地域環境演習」では、平成19年度の開講以来、環境マインドをもつ人材の育成を目的とした実地教育を行っています。受講生は環境問題解決への取組を通して、「自らPDCAサイクルを機能させて行動できるようになる」ことを目標として、ながの環境パートナーシップ会議のプロジェクトに参加させていただいています。前期に、「地域環境演習Ⅰ」として1単位を修得すると、その後「地域環境演習Ⅱ」として、もう1単位を修得することができます。

令和元年度前期には、「地域環境演習Ⅰ」として、(a) 生ごみ削減・再生利用（1名）、(b) 市民の森づくり（2名）、(c) 小生物の育成環境保全（1名）の三つのプロジェクトチームに4名の学生が参加し、成果発表を行いました。なお、4月の段階では市民の森づくりは3名でしたが、途中1名が事情により取りやめました。また、後期も演習Ⅱとして、(a) 生ごみ削減・再生利用（1名）、(b) 市民の森づくり（2名）の2チーム3名が前期に続いて活動に参加させていただきました。

以下に、その活動内容について紹介いたします。

### 生ごみ削減・再生利用

受入チーム

### 生ごみ削減・再生利用プロジェクトチーム

生ごみ削減・再生利用チームのキッズ生ごみ農園での野菜などの栽培、生ごみ削減展示（体験と学びの環境博信州環境フェア2019）および脱プラ推進のため麦ストローの製作などの活動に1年間参加させていただきました。

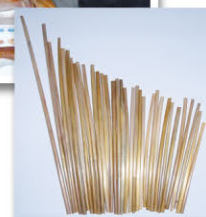
実際に畑での作業を経験することが出来て本当に楽しく活動ができましたが、野菜づくりは朝早くから畑へ行き、草むしりや機械の整備、堆肥づくり、収穫などやらなければいけないことが沢山あることを学び、苦労を知ったようです。また、ただ野菜をつくるだけでなく、いかに環境や身体にやさしい野菜をつくるということや、子ども食や病院に寄付したりするなどの地域との関わりも大切にしながらの活動にも驚きながらも、このような取り組みを積極的に行うことはよりよい社会づくりに必要なことと学びました。また、生ごみ削減展示では、実際に生ごみの堆肥化を家庭でされている方々と話す機会があり、長野県民の環境への意識の高さを感じました。麦ストローを製作してみて、思っていたより簡単に作ることが出来て驚きましたが、脱プラスチック運動は、今、最も注目されているものの一つであり、それに携われたことを実感しました。



▲キッズ生ごみ農園



▲麦ストローの作成作業



完成した麦ストロー▶



## 市民の森づくり

受入チーム

## 市民の森づくりプロジェクトチーム

市民の森づくりプロジェクトチームの、林業講座、森林整備、かんじき体験会、HP作成などに約1年間参加させていただきました。そこで、森林整備の知識や技術について学び、チェーンソーを用いた伐木の一連の作業を行えるようになりました。そして、実際に伐木をしてみて、木材の価値を下げないために根元から切る難しさも経験できました。市民の森の皆さんとの森林整備では、実際に遊歩道の一部の整備を行いました。実際の斜面での作業は思っていたよりも動きにくく、その中で重い丸太やチェーンソーを用いる作業はなかなか大変でした。また、切ったばかりの木材は水分を多く含んでいるためかなり重く、それら運び出す作業だけでもかなりの重労働でしたが、作業が進んでいくにつれて自分たちの整備の結果が目に見えてわかるのは大きな達成感となりました。

また、林業講座の中ではスパイラルの植生や生息している動物についても教えていただきました。その中にはスパイラルの中で育成しているキノコや、ふき、フクロウやタカなど豊かな環境を目の当たりにすることができました。これらは普段の生活の中では経験することのできない貴重な経験となりました。



▲基本的な切り方の練習  
(林業講座にて)



▲かかり木の処理  
(林業講座にて)

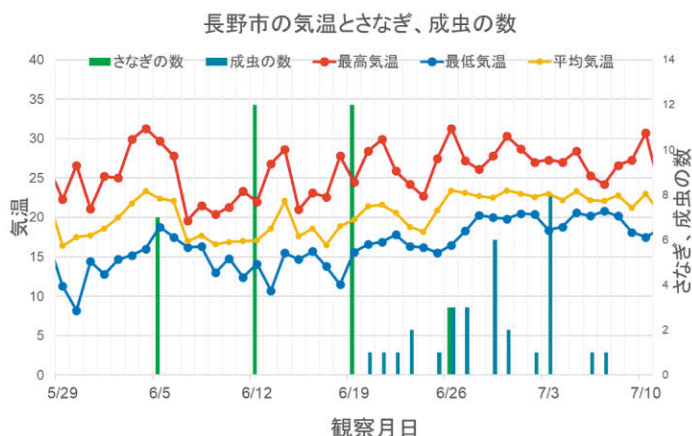
## 小生物の育成環境保全

受入チーム

## 小生物の育成環境保全プロジェクトチーム

小生物の育成環境保全チームの活動目標『オオムラサキの里での体験を通して、自然に対しどのように人が関わっていくべきかを考える』に共感し、活動に参加しました。

保護したオオムラサキの成長過程を記録し、羽化には最低気温と湿度が関係することを学びました。また、オオムラサキの里の観察会に地元の小学生や市民の方々とも交流を深めました。活動を通して、小生物育成環境保全として、人がどこまで手を出していいのかの線引きが難しいことを学び、また、ネットではなく、実際に本物のオオムラサキを見て、触って、感じる事ができる環境が本当に貴重なことだと感じました。さらに、チームを支えている人たちが高齢となっていて、将来、チームを支えるメンバーが必要と思いました。



▲オオムラサキのさなぎと成虫の数と気温の関係

以上のように、本年度もながの環境パートナーシップ会議の皆様には、本学学生が大変お世話になり大変感謝しております。学生たちには若い力とアイデアを期待されていますが、それに応えるにはさらなる教育・指導が必要であると毎年感じていますし、受講生はもっと担当教員に相談してほしいと思います。われわれ3名の担当教員だけでは手に負えないことでも、工学部の他の教員にまで広げることも可能と思っております。

「地域環境演習」は工学部の環境教育において特色を誇る科目の一つです。引き続き、ながの環境パートナーシップ会議の皆様の学生受け入れをよろしくお願いいたします。



## ライトダウンキャンペーン～キャンドルナイトコンサート～

「Love & Peace」を次の世代に



「ライトダウンながの実行委員会」は、環境省の温暖化防止のためライトアップ施設や家庭の電気を消してもらおうと呼びかける「CO<sub>2</sub>削減／ライトダウンキャンペーン」の趣旨に賛同して、2008年から毎年キャンペーンに取り組んできました。

この間、市民意識は少しずつ向上し、LEDが普及し一定の成果が得られたと評価をいただいています。ライトダウンキャンペーンとしての役割が多少なりとも果たせた今、「ライトダウンながの実行委員会」としてのキャンペーン活動は2020年度で終了しました。

この地球があらゆる面で危機に瀕している現在、解決しなければならない課題はたくさんあります。私たちはこのキャンペーンのシンボルイベント「キャンドルナイトコンサート」のテーマを「Love & Peace」として18回開催してきました。こうしたミッション実現のためには、ライトダウンのみならずあらゆる面ですべての命に対する「思いやり」が大切と考えます。「キャンドルナイトコンサート」を次世代に引き継ぎ、真の「Love & Peace」を実現させたいと願っています。

### ◆実行委員会構成団体

長野県環境保全協会北信支部、長野県・長野市地球温暖化防止活動推進員(長野市在住)、長野市、ながの環境パートナーシップ会議、NPO法人みどりの市民、長野青年会議所(2009年)

### ◆共催又は協賛

長野銀座商店街振興組合(2008、2009、2013、2014年)

### ◆協力団体及び組織

長野美術専門学校(2009年)、絆の会(2009年)、ALTER EGO(2009年)、JR東日本長野駅(2015年～)、ながのボランティア・市民活動支援ネットワーク(2015年～)、ながの協働ねっと(2015年～)、株式会社ステーションビルMIDORI(2015年)、母さんの玉手箱本舗企業組合(西山淡竹会)(2017年～2019年)、街角アート&ミュージック(2017年～2020年)、長野日産自動車株式会社(2020年)

### ◆後援

長野県、長野県地球温暖化防止活動推進センター、長野市地球温暖化防止活動推進センター、長野商工会議所、信濃毎日新聞社、長野市民新聞社、NHK長野放送局、SBC信越放送、NBS長野放送、TSBテレビ信州、abn長野朝日放送、FMながの、FMぜんこうじ

★ライトアップに慣れた日常から離れ、少しだけ電気を消して過ごしてみませんか

CO<sub>2</sub>削減

## ★ 昼も。夜も。★ ★ 節電ライトダウン2011 ★

★ 6月22日～8月31日 ★

消してみナイト! 一人ひとりができること たとえば…

- 家庭では…
  - テレビを消してひとりの部屋で家族団らん
  - キャンドルの明かりでスローな夜を
- 公共施設では…
  - 駐車場の照明を半分にしよう
  - 残業をやる努力をしましょう
  - 廊下の電気を半分に
- 事業所では…
  - 昼間の廊下の照明は半分に
  - 残業をやる努力をしましょう
  - 看板の明かり、駐車場の照明は半分に

みんなでライトダウン! 特別実施日

「夏至ライトダウン」 6月22日(水) 20:00～22:00  
「七夕ライトダウン」 7月7日(日) 20:00～22:00  
★キャンドルナイトコンサート★(概要を参照)  
6月22日(水) 19:00～ JR長野駅前広場・コンコース

ライトダウンに協力いただける個人、企業、団体の方は、裏面の参加票を、または、ながの環境パートナーシップ会議のHP <http://www.nagano-ep.net>よりキャンペーンに参加登録してください。

詳しくは下記のサイトをご覧ください

お問合せ・ライトダウンながの実行委員会 WEBサイト <http://lightdown.nagano-ep.net/>  
長野市環境政策課地球温暖化対策課 TEL.026-224-7532 NPO法人みどりの市民 TEL&FAX.026-235-5113

ライトダウンキャンペーンって?

このキャンペーンは温暖化防止のために、ライトアップ施設や家庭の電気を消すだけでなく、もともと2005年から呼びかけを行っていた「もも」です。また、市民、企業、政府が一線に合わせて呼びかけ(100万人のキャンドルナイト)とも連携しています。昨年のキャンペーン「夏至ライトダウン」「七夕ライトダウン」では全国でのべ約14万施設が参加、約800トンのCO<sub>2</sub>削減、およそ5万9千世帯の1000のCO<sub>2</sub>削減を削減することができました。

主催: ライトダウンながの実行委員会(長野県地球温暖化防止活動推進員(長野市在住)、長野市、長野県環境保全協会北信支部、ながの環境パートナーシップ会議、NPO法人みどりの市民、他)

後援: 長野県、長野市地球温暖化防止活動推進センター、信濃毎日新聞社、長野市民新聞社、NHK長野放送局、SBC信越放送、NBS長野放送、TSBテレビ信州、abn長野朝日放送。



## ◆ライトダウンキャンペーンこれまでの歩み（2008年～2020年）

年度	★ライトダウン キャンペーン	★キャンドルナイトコンサート				コン サート 参加者 (人)	キャン ペーン 参加 事業者 (延べ)	合計 削減 CO2量 (kg- CO2)	備考
		タイトル	実施日	場 所	出演者				
2008年	2008夏	2008年(夏)	6月20日	TOiGO広場(新田町交差点)	スパークリング・ジョイ、ラフダイヤモンドズ	—	—	—	
	2008冬	2008年(冬)	12月22日	TOiGO広場(新田町交差点)	清水まなぶ、屋代高校ギター・マンドリンクラブ	—	—	—	
2009年	2009夏	2009年(夏)	6月19日	TOiGO広場(新田町交差点)	ラフダイヤモンドズ、アンサンブルウインズ、根本さん(アコーディオン)	850	42	—	
	2009冬	2009年(冬)	12月22日	JR長野駅広場及び東西自由通路	みうアンドロメダ、Peham山口春絵、屋代高校ギター・マンドリン班、ねこにこばんど、ラフダイヤモンドズ	—	25	—	
2010年	2010夏	2010年(夏)	6月21日	JR長野駅広場及び東西自由通路	高山賢人、ラフダイヤモンドズ、矢島美紀	—	32	—	
	2010冬	2010年(冬)	12月21日	JR長野駅広場及び東西自由通路	高山賢人、ラフダイヤモンドズ、矢島美紀	850	32	246	
2011年	2011夏	2011年(夏)	6月22日	JR長野駅広場及び東西自由通路	美咲、臼井則孔、ラフダイヤモンドズ、矢島美紀	500	27	192	3月11日 東日本大震災
	2011冬	2011年(冬)	12月22日	JR長野駅広場及び東西自由通路	福島優美(ヴィブラフォン)、宮下静香(ピアノ)、ラフダイヤモンドズ、矢島美紀	450	27	189	
2012年	2012夏	2012年(夏)	6月21日	JR長野駅広場及び東西自由通路	tea、矢島美紀、ケント	600	32	228	
	2012冬	2012年(冬)	12月21日	JR長野駅広場及び東西自由通路	美咲、高山賢人、ラフダイヤモンドズ、みーちゃ	550	32	224	
2013年	2013夏・冬	2013年(夏)	7月5日	TOiGO広場(新田町交差点)	美咲、高山賢人、ラフダイヤモンドズ、みーちゃ	550	37	328	長野駅ビル 建て替え中
2014年	2014夏・冬	2014年(夏)	7月4日	TOiGO広場(新田町交差点)	美咲、ラフダイヤモンドズ	550	23	245	長野駅ビル 建て替え中
2015年	2015夏・冬	2015年(夏)	7月3日	JR長野駅善光寺口駅前広場	清水まなぶ、葦木美咲、ラフダイヤモンドズ、矢島美紀	750	23	236	新駅ビルとなる
2016年	2016夏・冬	2016年(夏)	7月1日	JR長野駅善光寺口駅前広場	清水まなぶ、葦木啓夏、ラフダイヤモンドズ	800	23	1651	シンボルイベント 電力自由化セミナー 実施(参加者50 名カウント)
2017年	2017夏・冬	2017年(夏)	7月7日	JR長野駅善光寺口駅前広場	清水まなぶ、葦木啓夏、ラフダイヤモンドズ	1000	22	213	環境団体大集合 参加
2018年	2018夏	2017年(夏)	6月29日	JR長野駅善光寺口駅前広場	清水まなぶ、葦木啓夏、ラフダイヤモンドズ	1000	11	198	環境団体大集合 参加
	2018冬	キャンドルペ ィン& ミニコンサート	12月22日	MIDORIりんごのひろば	ミニコンサート:矢島美紀、Yamy	120	11		
2019年	2019夏	2019年(夏)	7月5日	JR長野駅善光寺口駅前広場	清水まなぶ、高山賢人、ラフダイヤモンドズ	1000	11	197	台風第19号で 10月千曲川決壊
	2019冬	キャンドルペ ィン& ミニコンサート	12月7日	MIDORIりんごのひろば	ATSK(ギターとオカリナ演奏4人組)	200	12		
2020年	2020	2020年 ラストコンサート	10月23日	JR長野駅善光寺口駅前広場	葦木ヒロカ、清水まなぶ、高山賢人、ラフダイヤモンドズ	1200	18	163	新型コロナウイ ルス感染症
合 計						10970	440	4310	

ライトダウンする夜は、みんなが地球を想う夜。

# ライトダウンキャンペーン2020

inなごの

ライトダウン実施日  
2020年 10月23日(金) 18:00～22:00

ライトダウンキャンペーンって?  
地球温暖化防止のために、  
地球や未来世代の未来のために  
消してろうと輝ひけるキャンペーンです。

## Love&Peace

# キャンドルナイト ラストコンサート

10月23日(金) 18:00～20:00

会場: JR長野駅善光寺口駅前広場

出演  
シンガーソングライター  
葦木ヒロカ  
シンガーソングライター  
清水まなぶ  
シンガー  
高山賢人

★キャンドルナイトアップ  
※持ち物のエコキャンドル(400個予定)  
★メッセージキャンドル  
※キャンドルを飾っていただき、  
キャンドルを灯してください。

★星屋敷  
※キャンドルを灯す環境  
キャンドルの光とともに  
夜空を照らしません。  
秋の夜、JR長野駅の駅前広場で  
本気で電気を止めて、  
電気自動車から観覧した電力を使用した  
コンサートを観ます。

※キャンドルナイトの開催は、  
【長野県環境共生推進委員会、長野県、長野県環境教育推進センター(長野県庁)、長野県、長野県環境パートナーシップ協議会、NPO法人みどりの市民、協賛】  
協力: JR長野駅駅舎、なごのグリーンアップ(市民活動支援センター)、なごの環境センター、なごの環境センター、長野県環境共生推進委員会  
後援: 長野県、長野県環境共生推進委員会、長野県環境教育推進センター、長野県環境パートナーシップ協議会、NPO法人みどりの市民、協賛  
長野県環境共生推進委員会 TEL: 026-224-7532 NPO法人みどりの市民 TEL: FAX: 026-269-5092  
【本会場は、長野県環境共生推進センター、長野県環境共生推進委員会、なごの環境センターの協賛で開催します。】



### 実行委員長

高木 直樹

・みどりの市民 代表理事



### 事務局

渡辺 ヒデ子

・みどりの市民 (副理事長)





# プロジェクトサポーター制度の紹介

## ●プロジェクトサポーター制度とは…

事業者の参画をより一層促していくため、プロジェクト活動に協働・支援・共感等いただける事業者が、直接、人的・活動資金・活動場所などを支援いただき、協働体制による継続的な環境活動の展開を図ることを目的に平成28年度に当制度を創設しました。

長野市委託浄掃事業協同組合	×	生ごみ削減・再生利用PT
直富商事株式会社	×	子どもの環境学習支援PT
コマキ工業株式会社	×	小生物の育成環境保全PT
信陽食品株式会社	×	ぼんすけ育成PT
株式会社公害技術センター	×	生態系豊かな、水に親しめる川づくり (水環境保全) PT

## 新聞記事等で見えるながの環境パートナーシップ会議の活動

### ●ながの環境パートナーシップ会議 新聞等掲載一覧表 (R1.6.1 ~ R2.5.31)

番号	掲載年月日	掲載新聞名・広報紙名	掲載記事見出し	掲載記事の関係団体名 (P会議プロジェクト及びP会議会員団体等)
1	R1.6.20	信濃毎日新聞	夏至に合わせ消灯しよう 長野で22日からキャンペーン	ライトダウンながの実行委員会
2	R1.6.29	長野市民新聞	オオムラサキ羽化 松代の林地で始まる 東条小児童が観察	小生物の育成環境保全PT
3	R1.7.6	長野市民新聞	ぼんすけ観察や散策 信里で21日 研究員を招いて会	ぼんすけ育成PT
4	R1.7.25	長野市民新聞	シナイモツゴやイモリ 信里の水辺で観察会	ぼんすけ育成PT
5	R1.7.25	長野市民新聞	エシカルを考えよう 若里で27、28日食や体験イベント	エシカルふえす実行委員会 (渡辺ヒデ子副代表理事)
6	R1.8.3	長野市民新聞	茶臼山の自然を楽しむ 24日トレッキングや地層について説明も	ぼんすけ育成PT
7	R1.8.10	長野市民新聞	市霊園にゴマシジミ 昨年より一週間遅れ お盆ごろ発生ピーク	ゴマシジミ保護育成PT
8	R1.8.10	長野市民新聞	大学生ら奉仕活動 若根・田中で森林整備	田中さくら公園作り& 里山づくりPT
9	R1.8.27	長野市民新聞	ゴマシジミを守ろう 浅川で早朝パトロール 密猟を防ぐ活動を開始	ゴマシジミ保護育成PT
10	R1.9.10	信濃毎日新聞	地球の問題 海外の若者と学ぶ 長野で「国際ユース環境会議」	子どもの環境教育支援PT
11	R1.9.26	長野市民新聞	市内には、こんな生物 柳原で28日展示紹介 昆虫・魚を写真や標本で	小笠原幹夫さん、ぼんすけ育成PT
12	R1.12.7	長野市民新聞	ライトダウンキャンペーン2019 in ながの 広告	ライトダウンながの実行委員会
13	R1.12.14	長野市民新聞	ライトダウンキャンペーン2019 in ながの 広告	ライトダウンながの実行委員会
14	R1.12.25	信濃毎日新聞	年の瀬に考えよう食品ロス	渡辺ヒデ子副代表理事 (NPO法人みどりの市民事務局長)
15	R2.2.6	長野市民新聞	エシカルを考えよう みどりの市民が学習会 地元産大豆使い料理	NPO法人みどりの市民
16	R2.4.6	長野市民新聞	エドヒガン見頃 松代町東条	小生物の育成環境保全PT
17	R2.4.25	信濃毎日新聞	希少種の魚「シナイモツゴ」がすむ里山を守る	ぼんすけ育成PT
18	R2.5.26	長野市民新聞	松代オオムラサキの里紹介 ハンドブックを作成 パートナーシップ会議 学校に寄贈へ	小生物の育成環境保全PT





# SDGs

## の達成に向け

### ながの環境パートナーシップ会議は

### 環境保全活動を推進していきます

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



2015(平成27)年9月に、ニューヨークで開催された「国連持続可能な開発サミット」において、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択されました。これは、人間や地球の繁栄のため2030年までに達成すべき行動計画として掲げたものです。この目標が「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals 略して SDGs(エスディーゼズ))」であり、これまでのアジェンダ21やミレニアム開発目標(MDGs)などの理念と成果を土台に、豊かさを追求しながら地球を守ることを呼びかける17の目標と169の行動計画で構成され、「誰一人取り残さない」という理念のもと、環境問題と経済発展を両軸に、先進国、発展途上国を含めた全ての国々に持続可能な世界に向けての変革を求めています。

これを受け、日本では、2016(平成28)年5月に、「持続可能な開発目標(SDGs)推進本部」を設置し、同年12月には、実施指針を決定しています。実施指針では、「持続可能な強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の総合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」ことをビジョンに掲げ、政府が市民・事業者・NPO法人・行政と協力してSDGsの推進に取り組むことを示しました。

ながの環境パートナーシップ会議では、「アジェンダ21ながの一環境行動計画」による環境保全の活動を実施していくとともに、このSDGsの目標達成に寄与するよう、市民・事業者・行政が協働して、地域から地球規模につながる環境保全活動を推進していきます。



団体・企業も

# 新会員募集中!!

入会のお申し込み・お問い合わせ先

## ながの環境パートナーシップ会議 事務局

長野市環境保全温暖化対策課内  
〒380-8512  
長野市大字鶴賀緑町1613番地  
TEL.026-224-5034  
FAX.026-224-5108  
E-mail:kankyo@city.nagano.lg.jp  
<http://www.nagano-ep.net/>

こちらまで  
どうぞ。



入会申込書は、ながの環境パートナーシップ会議事務局に用意してあります。  
また、本会のホームページからもダウンロードできます。必要事項をご記入の上、事務局まで郵送、ファックス、電子メールのいずれかでお送りください。

いつでも入会できます。会員になって、一緒に環境保全活動を進めましょう(年会費一口500円)。

私たちは、  
ながの環境  
パートナーシップ会議  
の活動を **応援**  
しています

### 長野市地球温暖化防止活動推進センター

〒380-0835  
長野市新田町1513-2  
(82プラザ長野)  
TEL 026-237-6681  
FAX 026-237-6690  
E-mail eco-mame@dia.janis.or.jp  
<http://www.eco-mame.net/>



ながの環境パートナーシップ会議  
令和元年度活動成果報告書

「手をむすんで」

令和3年2月発行

編集発行：ながの環境パートナーシップ会議 長野市地球温暖化防止活動推進センター

印刷・製本：蔦友印刷株式会社



環境保全のため、再生紙および大豆インクを使用しています